

平成29年度 家庭教育に関する 調査研究報告書



栃木県PTA連合会

目 次

あいさつ	2
I アンケート調査の概要	3
1 栃木県内25校のPTA会員向けアンケート	4
2 子育てセミナー2017参加者向けアンケート	5
II アンケート結果	
栃木県内25校のPTA会員を対象とした調査結果	
1 調査人数とお子さんの学年、お子さんの性別	6
2 お子さんは朝ごはんを食べますか	7
3 朝食を主に誰と一緒に食べますか	8
4 お子さんの平日の起床時間は何時が多いですか	9
5 お子さんの平日の就寝時間は何時が多いですか	10
6 PTAの取り組み事業として最も興味をお持ちなのは	11
(1) 基本的生活習慣・家庭教育について	11
(2) 携帯電話・インターネット	12
(3) 安全・安心	12
(4) いじめ問題	13
(5) 不登校・ひきこもり	14
III 「いい親の日」宣言	15
IV 「早寝早起き朝ごはん」国民運動の推進について	
1 調査結果3年間の比較	
(朝ごはんを食べますか、誰と一緒に食べますか?)	16
(平日の起床時間は、平日の就寝時間は?)	17
2 「早寝早起き朝ごはん」国民運動の推進について	18
V 子育てセミナー2017の参加者を対象とした調査結果	
1 講演の内容	20
2 調査人数とお子さんの学年	21
3 お子さんは専用の携帯電話をお持ちですか	21
4 利用しているSNSや機能は何ですか	22
5 いろいろ持たせようと思いますか	23

あ い さ つ

栃木県PTA連合会長 渡 邊 宏 幸

I アンケート調査の概要

1 目的

栃木県PTA連合会の基本方針である「子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせ、学校教育の更なる充実のために支援する体制を確立する」ために、状況を把握し、基礎資料として情報提供するとともに、保護者自らが子どもの生活習慣を振り返ることを目的とする。

2 調査対象者

(1) 平成29年度 栃木県PTA会員 協力25校

【調査協力校一覧】

宇都宮市立一条中学校	上三川町立明治小学校	鹿沼市立東中学校
日光市立足尾小学校	日光市立足尾中学校	真岡市立長沼小学校
益子町立七井中学校	茂木町立茂木中学校	市貝町立市貝中学校
芳賀町立芳賀北小学校	壬生町立羽生田小学校	野木町立佐川野小学校
小山市立大谷中学校	栃木市立岩舟中学校	下野市立緑小学校
矢板市立泉中学校	さくら市立喜連川中学校	塩谷町立船生小学校
高根沢町立中央小学校	那須烏山市立烏山中学校	那珂川町立馬頭東小学校
大田原市立薄葉小学校	那須町立学びの森小学校	那須塩原市立槻沢小学校
佐野市立南中学校	足利市立御厨小学校	

(2) 平成29年11月10日(木) 開催「子育てセミナー2017」参加者

3 調査方法

調査票は、P4・5の2種類を使用

4 調査期間

平成29年11月

5 調査機関

栃木県PTA連合会 教育課題委員会

(1) 平成29年度 栃木県内25校のPTA会員に向けたアンケート調査票

問1 在学している一番下のお子さんについてお聞きします。お子さんは、何年生ですか？

小学校 ア 1年生～3年生（男 女） イ 4年生～6年生（男 女）

中学校 ア 1年生（男 女） イ 2年生（男 女） ウ 3年生（男 女）

問2 問1で回答したお子さんは、朝ごはんを食べますか？（1つに○）

ア 毎日食べる イ 時々食べる ウ ほとんど食べない

※スナック菓子・サプリメントは含まない

問3 問1で回答したお子さんは、主にどんな内容の朝ごはんを食べていますか？

※週に3日以上食べている項目に「○」を、食べていない項目に「×」を記入ください

ア 主食（ご飯・パン・シリアル）

イ 主菜（卵・肉・魚類など）

ウ 副菜（野菜類など）

エ 汁物（味噌汁・スープ類）

オ 牛乳・ヨーグルトなど

カ 果物類

問4 問1で回答したお子さんは、朝食を主に誰と一緒に食べますか？（1つに○）

ア 家族と一緒に

イ 兄弟姉妹だけで食べる

ウ ひとり

問5 問1で回答したお子さんの平日の起床時間は何時が多いですか？（1つに○）

ア 午前6時前 イ 午前6時～7時 ウ 午前7時～8時 エ 午前8時過ぎ

問6 問1で回答したお子さんの平日の就寝時間は何時が多いですか？（1つに○）

ア 午後8時前 イ 午後8時～9時 ウ 午後9時～10時

エ 午後10時～11時 オ 午後11時過ぎ

問7 PTAの取り組み事業として関心をお持ちなのは何ですか？

（各ジャンルから気になるものに○ 複数可）

●基本的生活習慣・家庭教育

ア 食事 イ 睡眠 ウ 学校生活 エ 友人関係 オ 学力向上

カ しつけ キ 親子の時間

●携帯電話・インターネット

ア メール イ SNS（LINE ツイッターなど） ウ フィルタリング

エ オンラインゲーム

●安心・安全

ア 通学路 イ 不審者 ウ 地域連携 エ 自然災害

●いじめ問題

ア 研修・講演会・調査 イ ネットいじめ ウ 道徳、モラル

エ 学校での指導・対策

●不登校・ひきこもり

ア 研修・講演会・調査 イ 家庭での対応 ウ 学校での指導・対策

(2) 11月10日(木)開催の「子育てセミナー2017」参加者に向けた調査票

《お子様について》

現在、小・中学校に在籍の一番上のお子様は何年生ですか？

ア 小学校 1-2 年 イ 小学校 3-4 年 ウ 小学校 5-6 年 エ 中学生

《子育てセミナーについて》

【問1】 本日のセミナーについて、講演の内容はいかがだったでしょうか？

ア 大変よかった イ よかった ウ ふつう エ よくなかった
オ わからない

【問2】 曜日の設定はいかがだったでしょうか？

ア 平日でよかった イ 土・日がよかった ウ どちらでもかまわない

【問3】 講演の感想またはご意見をお書きください

【問4】 今後の子育てセミナーで聞いてみたいジャンルはありますか？（複数選択可）

ア 家庭教育 イ 食育・健康 ウ 学校教育 エ 組織運営 オ 地域連携
カ 広報活動 キ 安全・安心 ク 国際理解 ケ 人権教育 コ 生活習慣
サ 学力向上 シ 携帯電話・インターネット ス その他（フリー回答）

【問5】 今後の子育てセミナーで聞いてみたい講師・内容はありますか？

《携帯電話について》

現在、小・中学校に在籍の一番上のお子様は専用の携帯電話はお持ちですか？

ア 持っている イ 持っていない

「ア 持っている」とお答えの方にお伺いします

●利用しているSNSや機能は？（複数選択可）

ア LINE イ Facebook ウ Twitter エ 携帯メール
オ ゲームアプリ カ 通話のみ

「イ 持っていない」とお答えの方にお伺いします。いつごろ持たせようと思いますか？

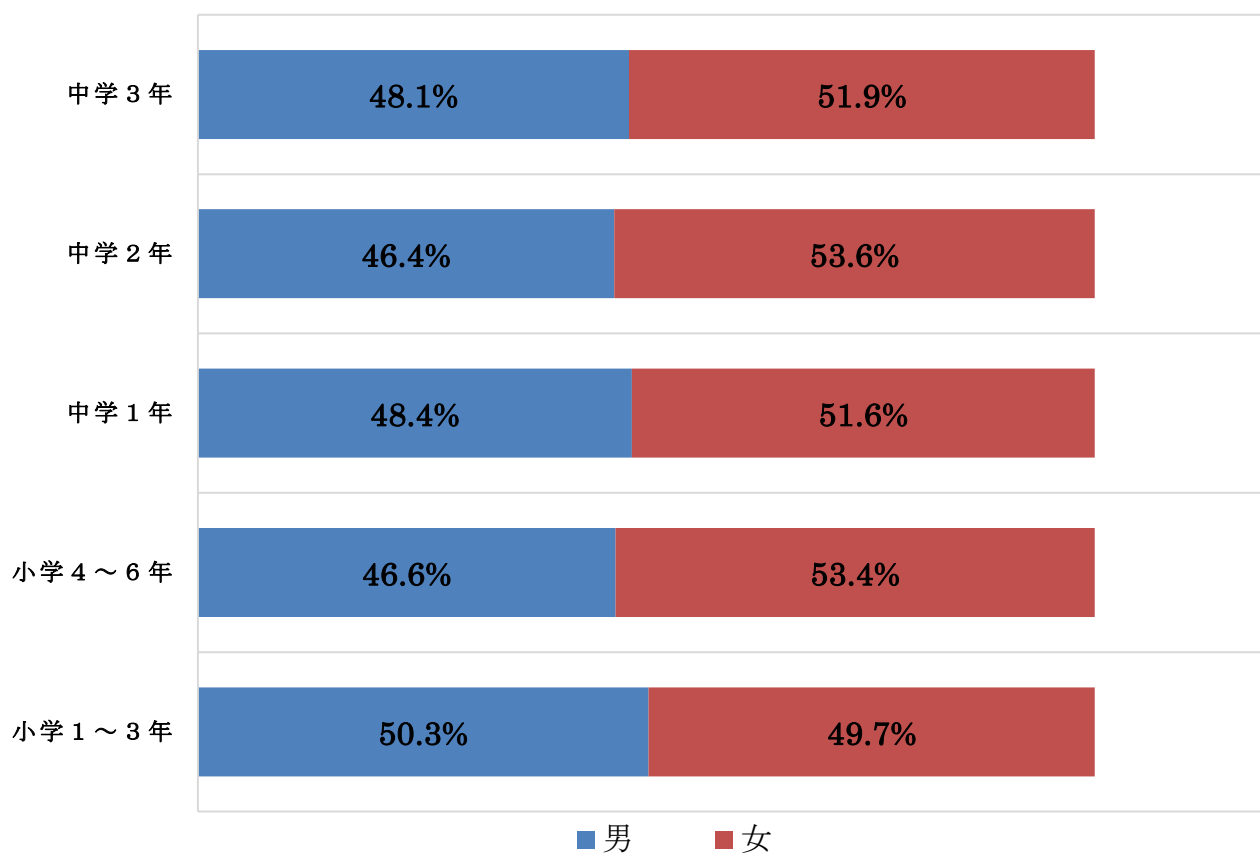
ア 高校卒業時 イ 高校入学時 ウ 中学入学時
エ 欲しいといわれたらすぐにも オ 必要性を感じたとき

Ⅱ 平成29年度 栃木県内25校のPTA会員 を対象とした調査結果

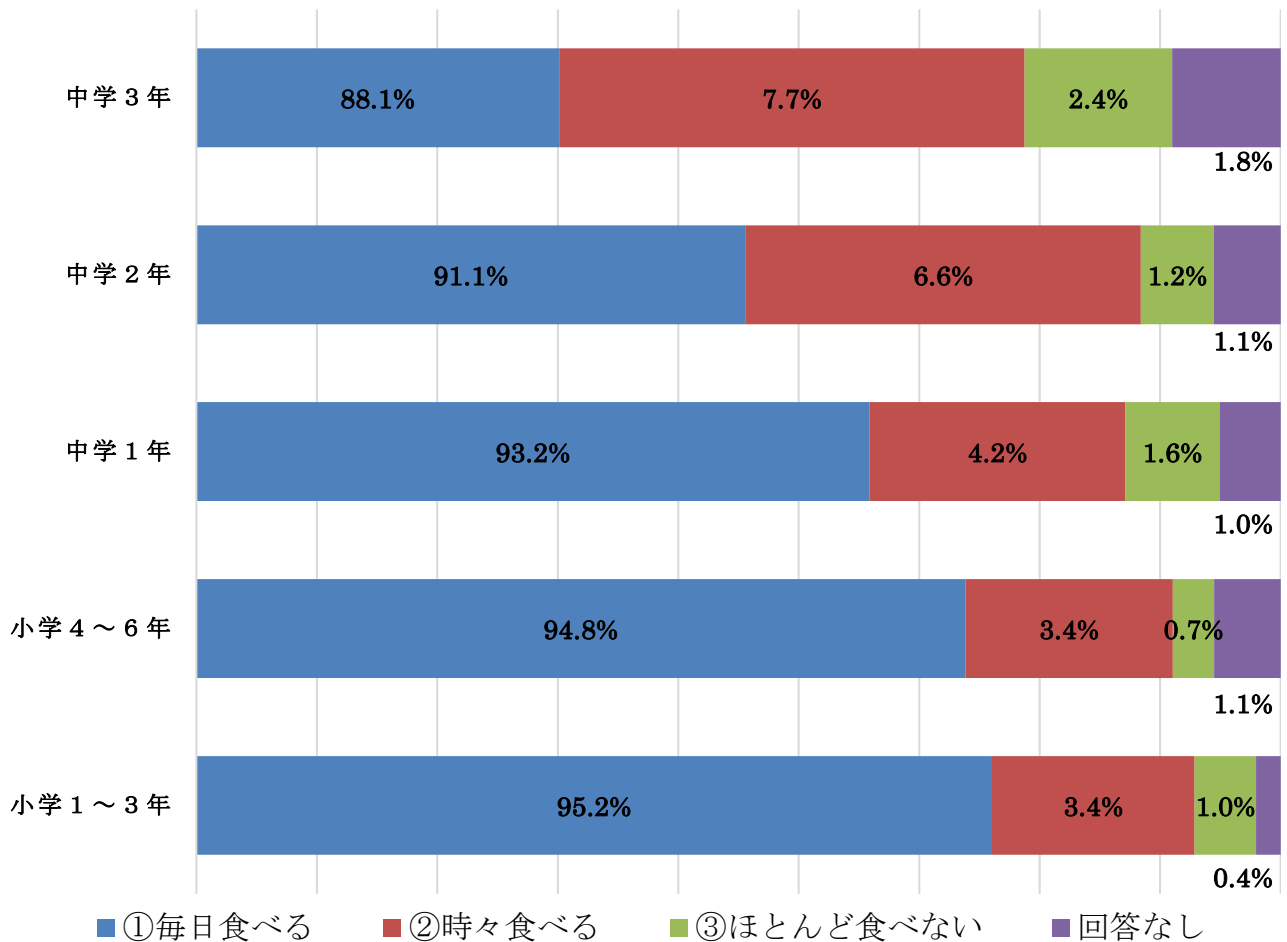
1 調査人数とお子さんの学年

小学低学年	小学高学年	中学1年	中学2年	中学3年	合計
981 名	726 名	1085 名	991 名	776 名	4559 名

1 お子さんの学年と性別



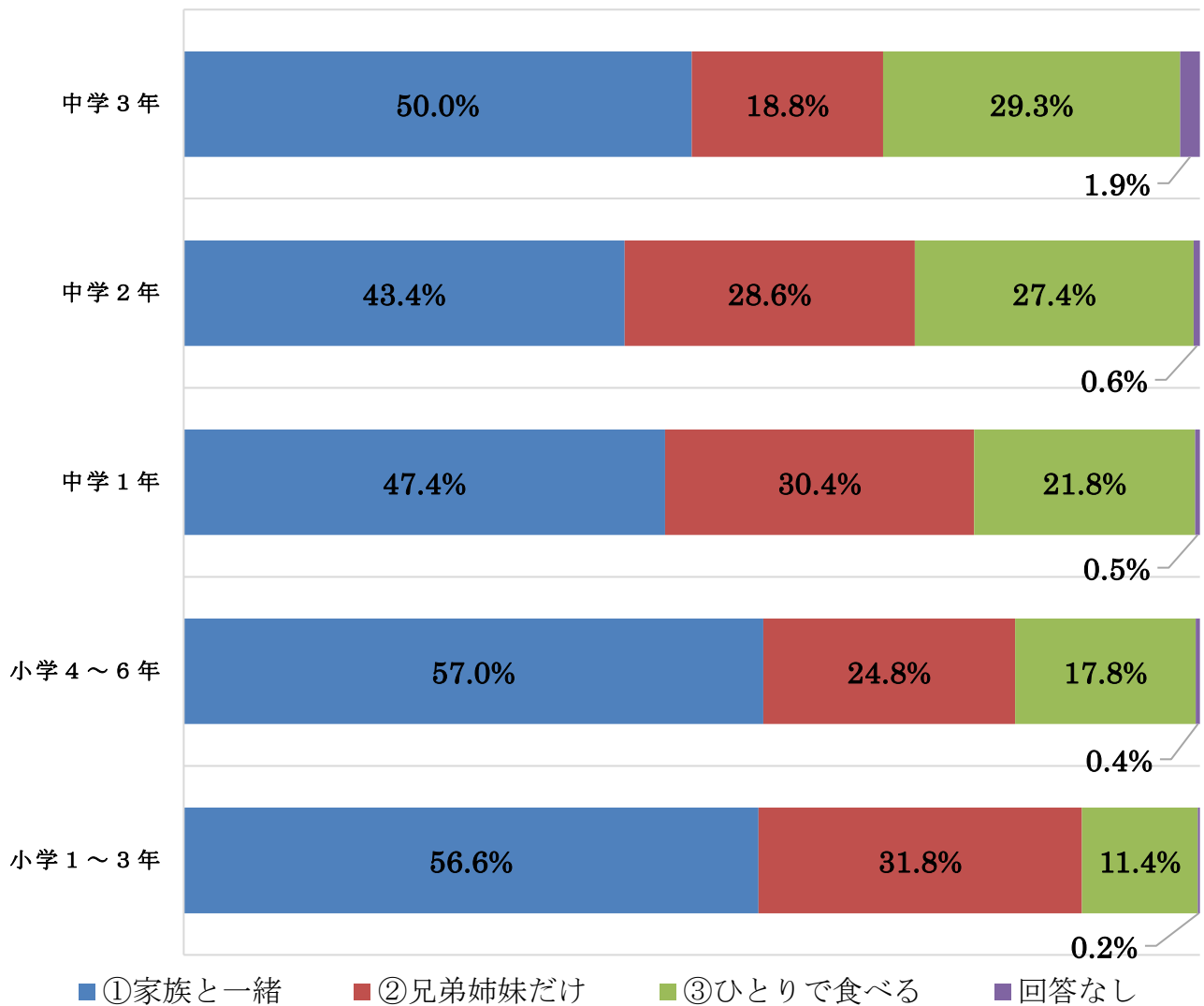
2 朝ごはんを食べますか



小学生 95.0%、中学生 91.0%が、朝御飯を毎日食べています。時々食べるとを合わせると小学生で 98.4%、中学生で 97.1%と非常に高い割合になり、昨年 28 年度の結果とほぼ同じです。この高い数字を維持しているのは家庭や地域、行政や学校が食育について力を入れて頑張っている成果であると考えられます。しかし相変わらず高学年になるほど毎日食べる数字が落ちてきます。今後も粘り強く朝食の摂取の大切さを伝えて行く必要があると考えられます。

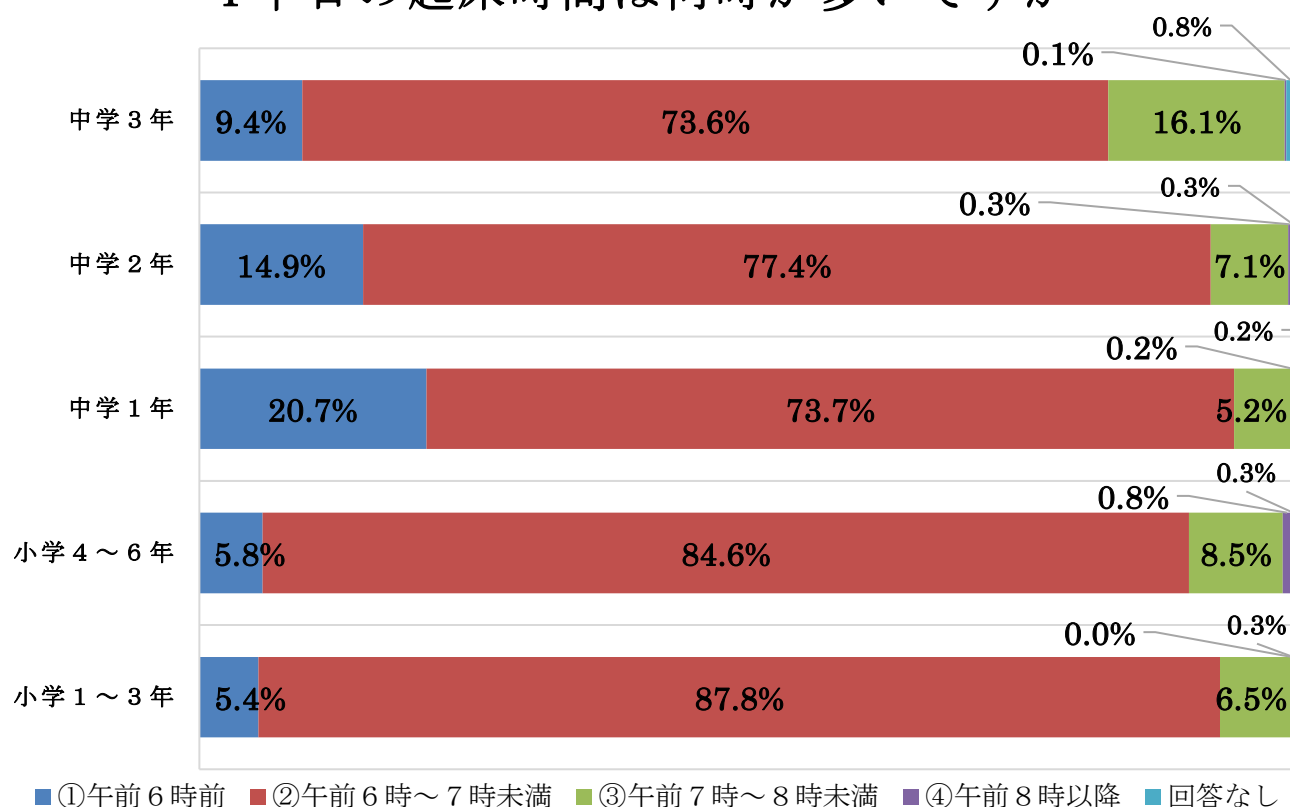
なぜ朝食が大切なのでしょう？体と頭にエネルギーを補給する、体温を上げる、体調を整える働きなど、学力向上、体力向上の源となるのが朝食です。早寝早起き朝ごはん運動があるように生活習慣はとても大切です。生活習慣の見直しや、バランスの取れた朝食が取れるように家族で考えましょう。

3 朝食を主に誰と一緒に食べますか



各学年とも「家族と一緒に」の傾向が約半数近くを占めています。小学生では保護者が用意して食べさせている傾向があります。高学年になり一人で食べる傾向が高くなってきます。中学生になると起床時間や登校時間、学校までの通学時間、部活動の朝練などがあり、時間が異なってくるために家庭と一緒に食べる時間が減ってくると考えられます。心身ともに成長する大切な時期において忙しい時間の中で、子供の体、心の状態を確認する為にもコミュニケーションを取りながら朝食を摂る機会を設ける工夫が必要です。

4 平日の起床時間は何時が多いですか

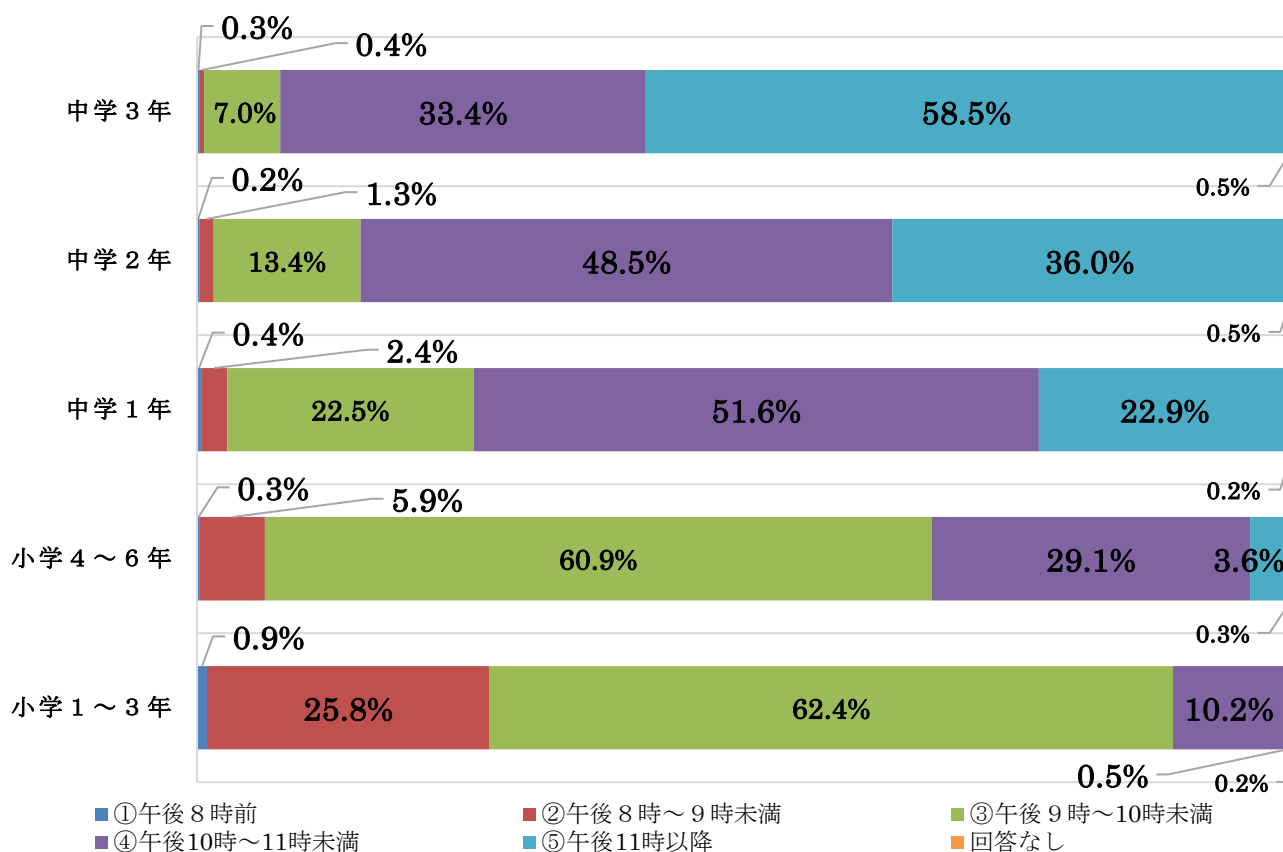


全体を通して、午前6時から午前7時未満の起床時間が約8割であり、早起きが定着しています。また、2番目に多い起床時間を比較してみた場合、小学生が午前7時～8時未満、中学1・2年生は午前6時半、中学3年生は午前7時～8時未満と、学年によってばらつきがあるようです。

一般的に、起床し脳が活発に働きだすまでの時間は、3時間以降といわれています。

授業を、1時間目から集中して受けられるように、保護者と子供が、一緒に起床時間について考え、早い時間の就寝、そして早起きの習慣を見つけさせましょう。

5 平日の就寝時間は何時が多いですか

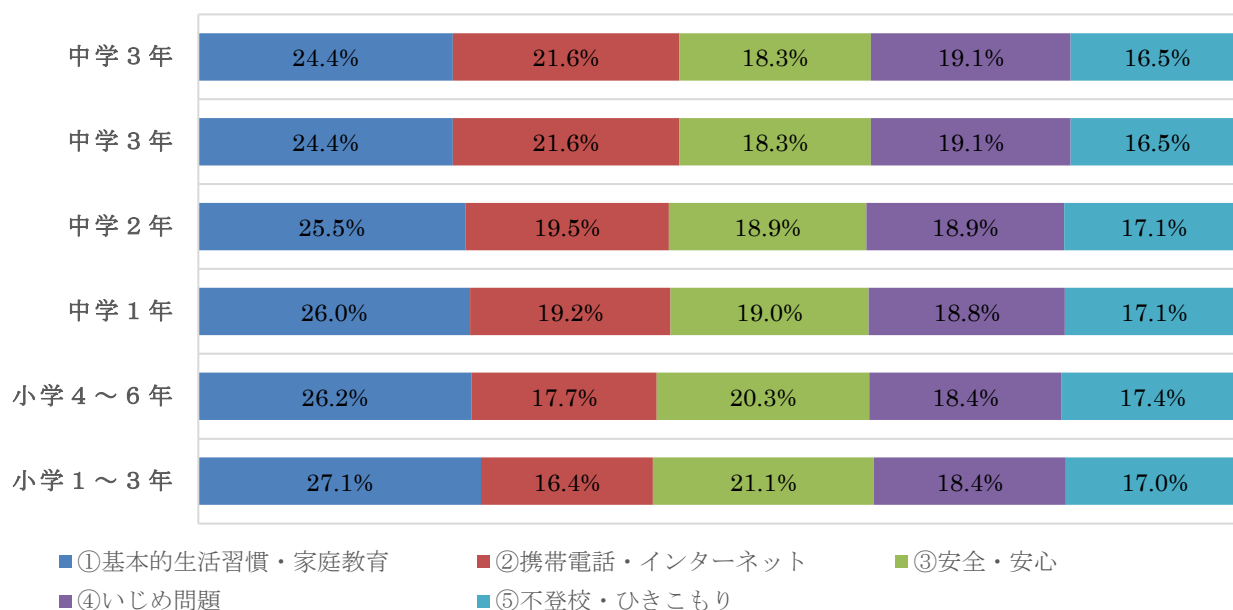


小学生の就寝時間は、午後9時～10時未満の時間帯が半数を上回り、高学年になると徐々に就寝時間が遅くなる傾向となる結果が得られました。また、中学1・2年は、午後10時～11時未満の就寝時間が約半数に対し、中学3年になると午後11時以降が6割となる結果が出ています。

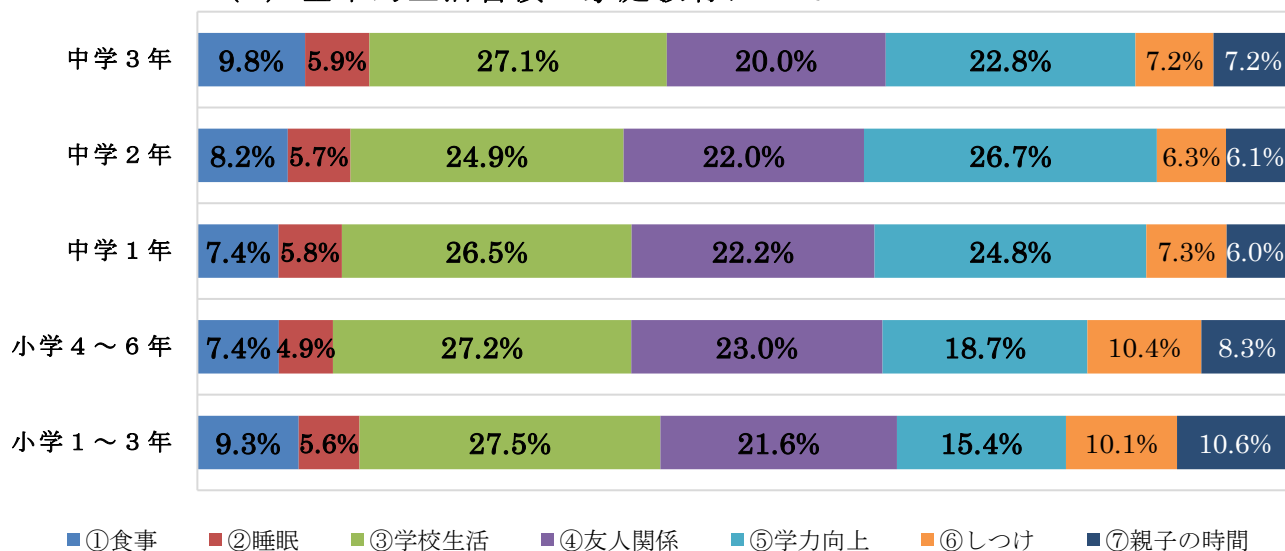
中学生になると就寝時間が遅くなる傾向には、特に部活動や塾など家庭外での活動が要因と考えられます。

文部科学省が推進する「早寝早起き朝ごはん国民運動」では、生活のリズムを作ることで子供たちの自立と健全育成を推進する効果があるとしています。毎日ベストコンディションで生活ができるように、就寝時間について家庭内で話し合いましょう。

6 PTAの取り組み事業として最も興味をお持ちなのは？



(1) 基本的生活習慣・家庭教育について



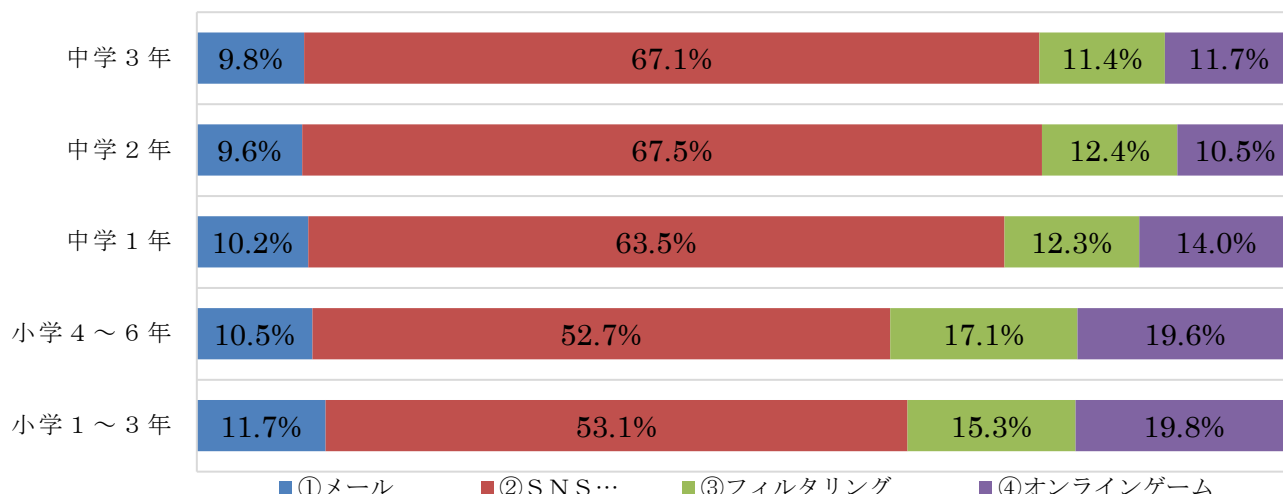
(1) 基本的生活習慣・家庭教育

数字から見てもわかるように、大半の保護者が学校生活・友人関係・学力向上の学校生活面での取り組みに興味をもっているのが分かります。

また、それぞれにおいて小中学校とも低学年になればなるほど関心がある事が分かります。更に、学力向上においては年々変化し続けている学校教育において、中学生になると関心が高くなる事が分かります。

親子の時間に関して、中学生では十分な時間が過ごせているのか疑問が残る結果となりました。

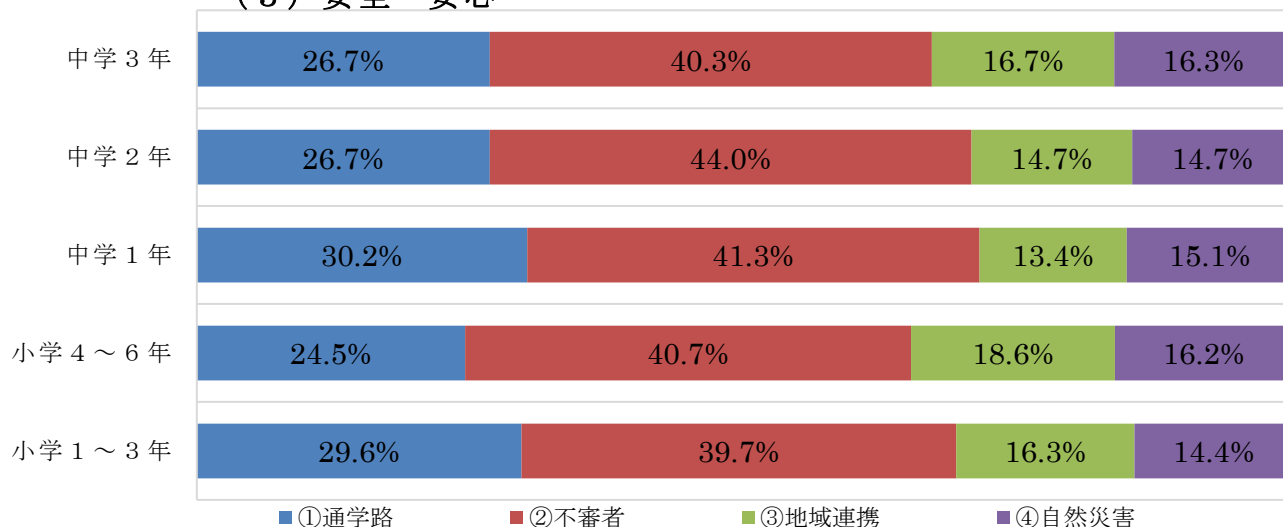
(2) 携帯電話・インターネット



(2) 携帯電話・インターネット

携帯電話・インターネットに関して、年々所持率は上昇し、低年齢化も進んでいます。生活環境にあわせ、親の都合で持たせることも多くなっています。その反面、SNS やゲームなどで犯罪に巻き込まれる危険性が高まり、友人とのトラブルも多く見られます。私たち大人は携帯電話の利便性を熟知しています。学校での指導もありますが、まずは保護者の責任のもと、使わせることが重要だと考えます。

(3) 安全・安心

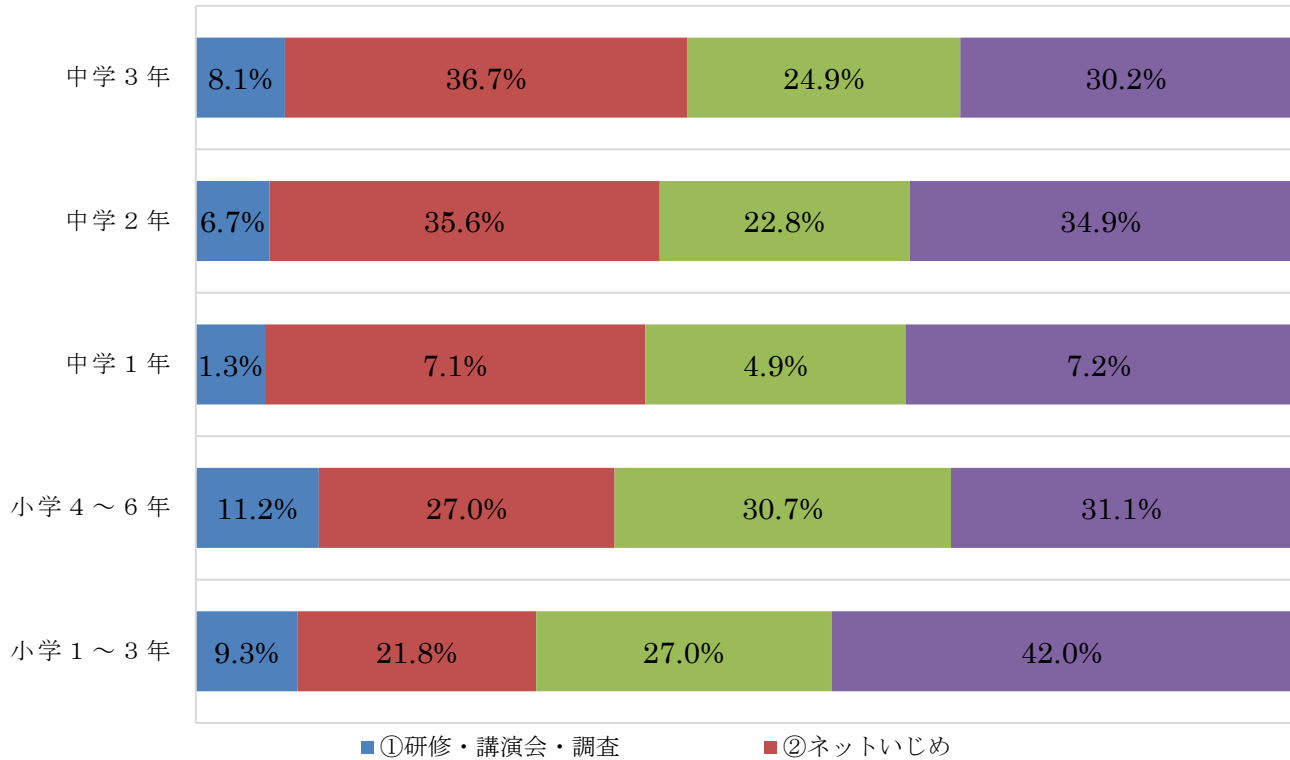


(3) 安全・安心

通学路(保護者全体で 40.6%)と不審者(同 60.2%)はいずれも登下校や放課後も生活といった学校生活に直結するような内容のため“PTA の取り組み”として高い興味(関心)が持たれたものと思われます。一方、地域連携、自然災害が全体で 22.3%でした。

これは「安全・安心における地域連携」という言葉のイメージが掴みきれないところもあったのかもしれません。したがってアンケートで回答数の多かった通学路、不審者に対する安全・安心を PTA として確保するための行動をするのはもちろん、回答数の少なかった、地域連携、自然災害に PTA として、どのような行動が出来るのかを考えて保護者に示して行く必要もあることがわかりました。

(4) いじめ問題



(4) いじめ問題

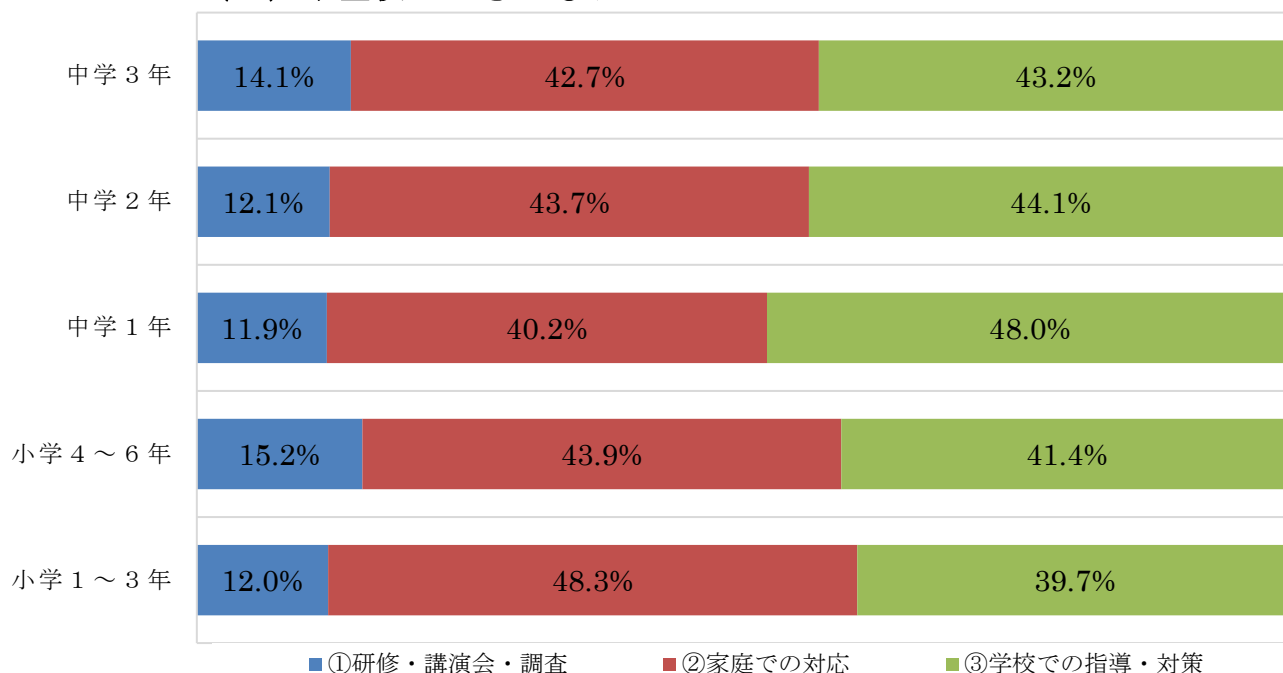
いじめ問題に関しては、小学低学年と中学1年で回答選択数が多い傾向に見られました。

入学を伴った環境の変化により、いじめ問題に敏感になる傾向がありそうです。

ネットいじめへの興味(関心)が中学生の保護者から急増する傾向がみられます。インターネットの利用状況に比例してネットいじめの興味(関心)が高くなるのは保護者として当然です。

いじめ問題に関しては、小学低学年、中学1年時に、ネットいじめに対しては特に中学生から学校とPTAが連携し未然に防ぐ取り組みが必要であると思われます。

(5) 不登校・ひきこもり



(5) 不登校・ひきこもり

「家庭での対応」・「学校での指導・対策」の項目は残学年で 40%に達しています。

「家庭での対応」は小学 1～3 年の割合が 48.3%、「学校での指導・対策」が中学1年で 48%と一番高い結果となっています。これは、環境の変化による不安や友達関係、いじめ問題など様々な事が要因になっているのではないかと思います。これらは子供の目線に対話していくこと、子供同士、親同士のコミュニケーションも大切であり、学校と家庭で連携をとっていくことが重要になってくると思います。



ロゴマークの意味

IJIME 0 (いじめゼロ) の頭文字 I・J・M・0を意匠化しました。二人の子どもが向き合い、ほほえみを交わしながら、大切な芽を共に育てていく姿がモチーフです。芽は、子どもたちの「友情」を表しています。

(作者の創作の意図より)

Ⅲ 「いい親の日」宣言

平成18年12月に改正された教育基本法に「子どもの第一義的責任は保護者にある」と記され、家庭教育力向上のためのさまざまな取り組みがなされております。

高度情報化、グローバル化、それに伴う価値観の多様化など、社会の変わりようは我々保護者の子どもに対する関わり方に大きな変化をもたらしており、私たちはこれらに対しさらなる奮起が求められております。

これまで私たち栃木県PTA連合会は親の学びの大切さを訴え続け、長年にわたり子育てセミナー等を通してその学びの拡充を図ってまいりました。

そこに一定の成果を残すものの、それを上回る速度でさまざまな問題が次々と発生しており、学校に任せきりの現状を打開することが喫緊の課題となっております。

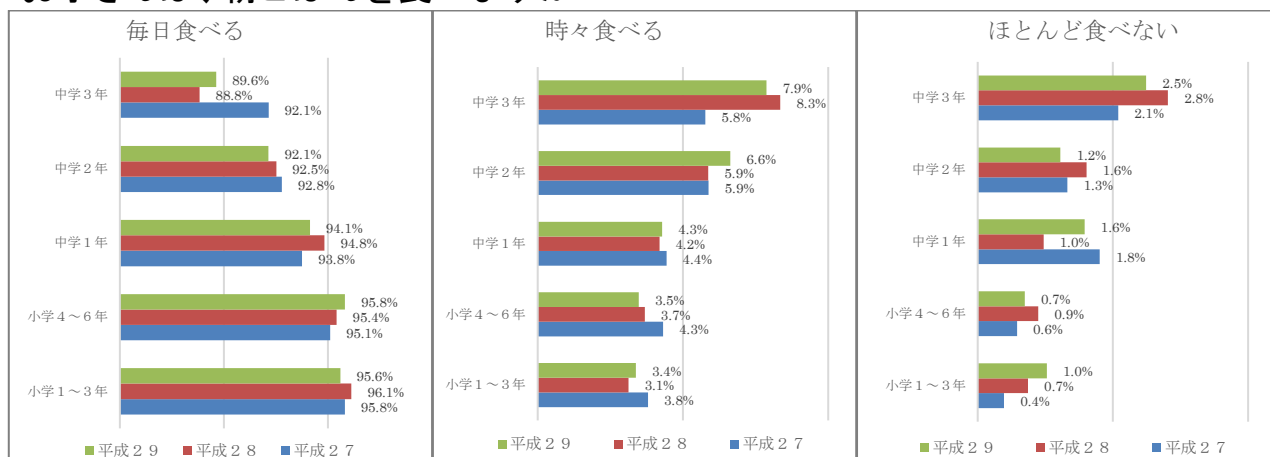
ここに改めて教育責任の分担確認と保護者の資質向上のため、11月8日を「いい親の日」と制定いたします。また、毎月8日を「親の日」とし、下記の指針を示します。

- 一、子どもを大切にします
- 一、家族団らんの時間を持ちます
- 一、おとな自ら規範を示します
- 一、正しい生活リズムをつくります
- 一、人の悪口を言いません

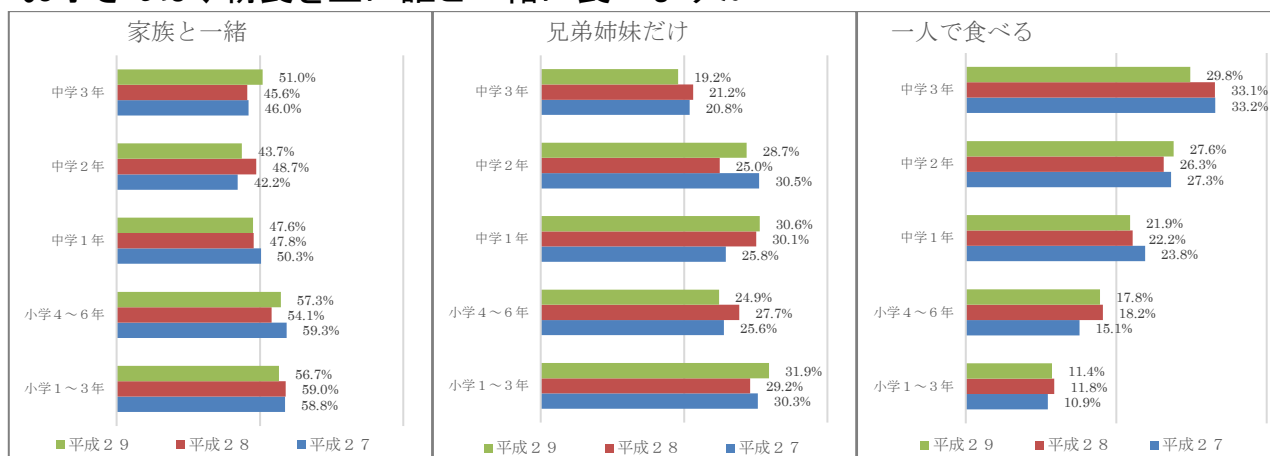
Ⅳ 「早寝最も早起き朝ごはん」国民運動の推進について

1 栃木県内の PTA 会員に向けたアンケート調査結果 3 年間の比較

・お子さんは、朝ごはんを食べますか？



・お子さんは、朝食を主に誰と一緒に食べますか？



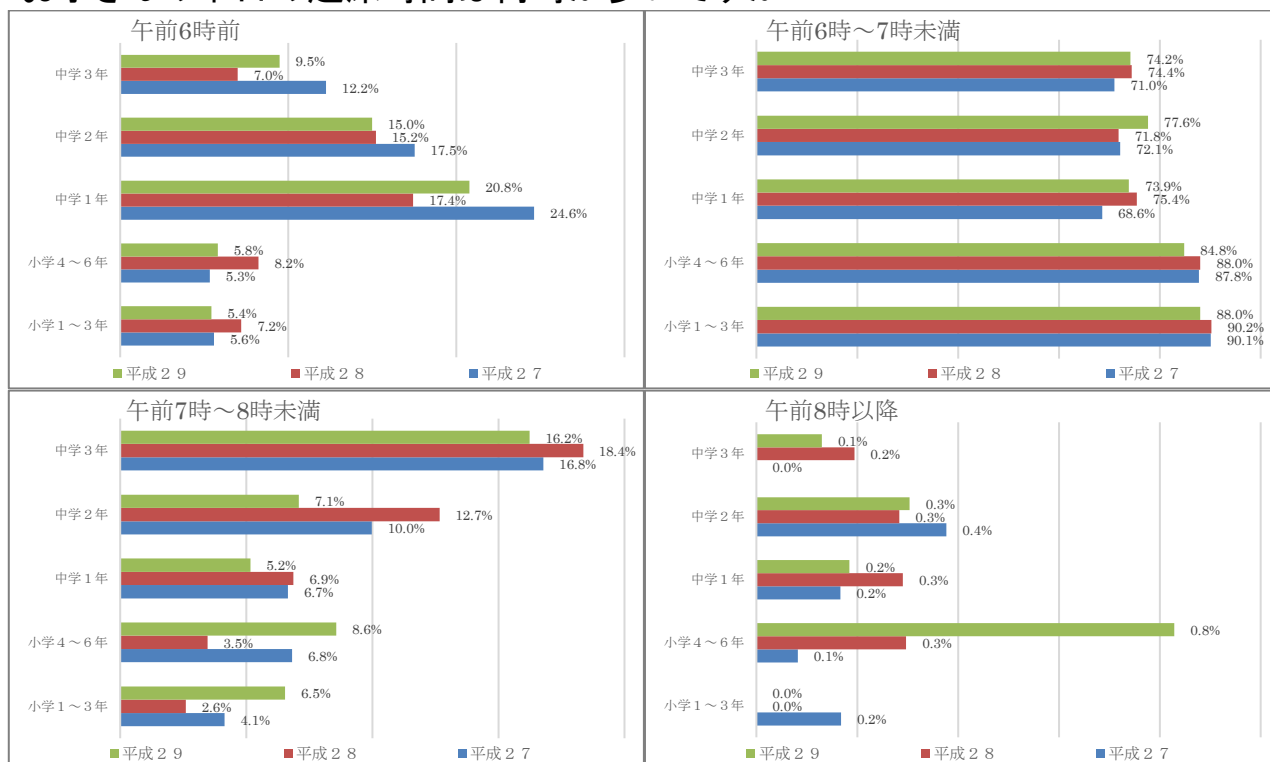
朝ごはんを食べますか？の問いに対し、小学生では毎年95%近い回答が得られていることで、概ね実施されていると考える。が、上級生（特に中学生）になるにつれ、毎日朝食をとる方が減っていることが見て取れる。この点は、しっかりと推進活動および、保護者への理解を呼びかける必要があると思う。

それを推進するに当たり、誰と朝食を一緒に食べるかの問いに対し、家族と一緒にと答えているのが、全体の半数しかない。生活環境の違いはあるにせよ、親子で会話をする機会を増やすためにも、この点も一緒に推進をしていく必要があると感じる。

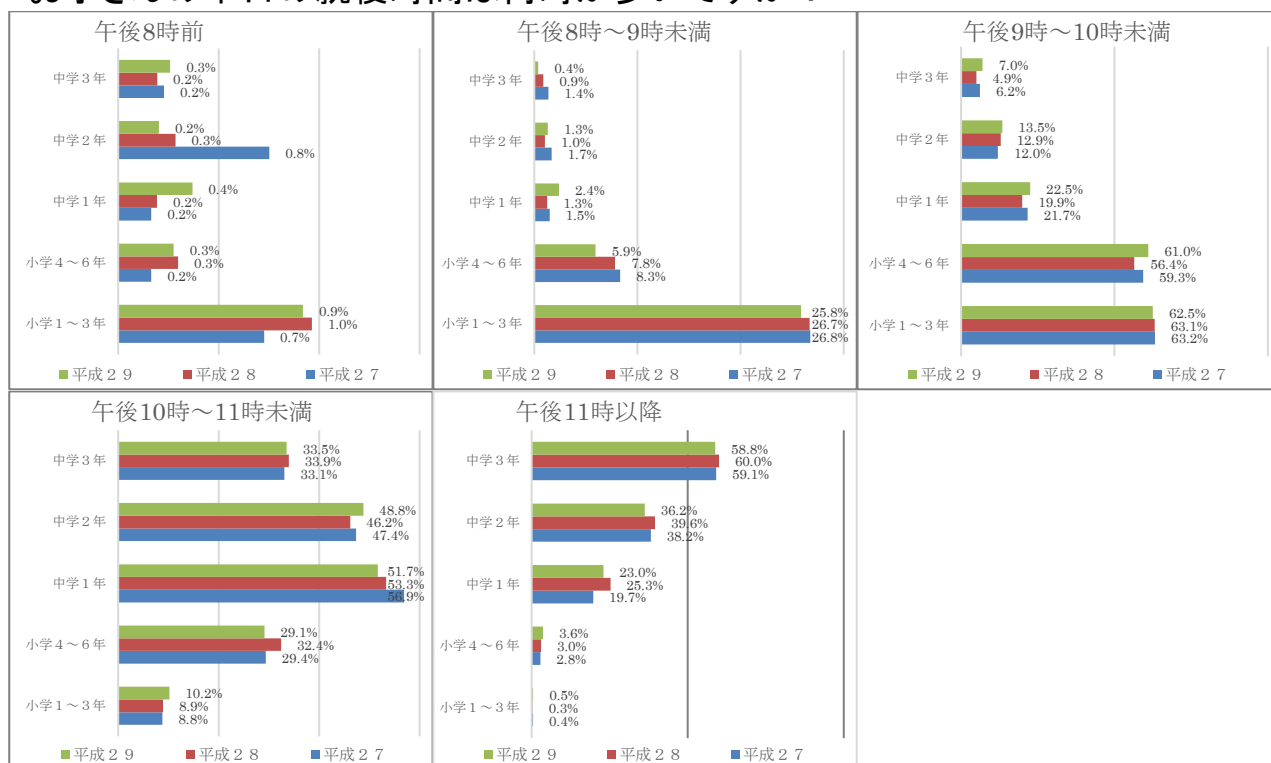
起床、就寝時間については、8時間の睡眠時間が理想と考えると、小学生では、ほぼ保護者の理解を得られているように感じる。中学生になると様々な生活環境の変化でその限りではなくなっている。脳が活発に動き出す時間は、起床後3時間といわれている。早起きすることで学校の授業への集中度が増す効果があると考え。また、起床後軽い運動を入れることで脳の起床時間も早まると言われている。どうしても夜遅い時間まで勉強等をしてしま傾向にあると思うが、視点を変えて、朝の活動に変化してみることも一つの手法ととらえてみることも考えていただきたい。

ともあれ、基本的習慣を身に付けていくには、親子でのコミュニケーションが大切である。どうしても忙しくなってしまう生活環境を、今一度見つめなおし、親子で一緒に成長できる環境づくりが必要なのだと考えます。

・お子さんの平日の起床時間は何時が多いですか



・お子さんの平日の就寝時間は何時が多いですか？





シンボルマーク

2 「早寝早起朝ごはん」国民運動の推進について

子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。また、子どもがこうした生活習慣を身に付けていくためには家庭の果たすべき役割は大きいところですが、最近の子どもたちを見ると、「よく体を動かし、よく食べ、よく眠る」という成長期の子どものもとで当たり前で必要不可欠な基本的生活習慣が大きく乱れています。

こうした基本的生活習慣の乱れが、学習意欲や体力、気力の低下の要因の一つとして指摘されています。

このような状況を見ると、家庭における食事や睡眠などの乱れは、個々の家庭や子どもの問題として見過ごすことなく、社会全体の問題として地域による、一丸となった取り組みが重要な課題となっています。

このため、平成 18 年 4 月 24 日には、本運動に賛同する百を超える個人や団体（PTA、子ども会、青少年団体、スポーツ団体、文化関係団体、読書・食育推進団体、経済界等）など、幅広い関係者に御参加いただき、「早寝早起朝ごはん」全国協議会が設立されたところです。子どもたちの問題は大人一人一人の意識の問題でもあり、これを契機として多くの団体とともに、子どもの基本的生活習慣の確立や生活リズムの向上につながる運動を積極的に展開してまいります。

文部科学省ホームページより引用

V 平成29年度 「子育てセミナー2017」 の参加者を対象とした 調査結果

子育てセミナー2017

「母親だからできること第三部」
～克服した家族～

日時：2017年11月7日（火）
13：00～15：30

場所：栃木県教育会館大ホール

講師：高濱 正伸 氏



身振り手振りを交えて講演する高濱正伸氏

【講師プロフィール】

1959年熊本県生まれ。

東京大学在学中から塾講師や幼児の野外活動の指導者などのアルバイトを経験。

同大学院修了後、小学校低学年向けの「作文」「読書」「思考力」「野外体験」を重視した学習教室「花まる学習会」を設立。

同時に、ひきこもりや不登校児の教育も開始。

2015年より佐賀県武雄市で「武雄花まる学園」として公立小学校5校の運営に関わる。

1 講演内容

【26 歳男性 ひきこもり】

高濱先生にとって哀しい事例となったケース。昼夜逆転した生活を送り、ひたすらゲームだけをしていた男性。彼に先生が関わるようになって一か月ほどでガンであることが発覚し、それから二か月後には亡くなったそうです。

先生曰く「昼夜逆転は、小学校時代に朝寝坊しても構わないという間違っただけの刷り込みを親がしてしまうから。朝は何があっても起きる、休みの日でも起きる、という躰が大切。また、たった一人でも自分を好きになってくれた経験があれば、それだけで人は強くなれる。」とのことでした。

【一人っ子作戦】

小一の女子。優秀な姉と、だれもが認める美人の妹がいて、存在感が薄い。花まる学習会に来た当初、自信のなさから非常に反抗的な態度でした。

ある時、父母が話し合い、父の発案で、姉と妹を祖父母宅に預けて、一週間親子三人で過ごすことになりました。その中で、次女の生まれた時からの思い出をたくさん話して聞かせて楽しく過ごしたそうです。すると、その一週間後について、うれしくて原稿用紙十一枚もの作文を書いたとのこと。「自分も十分に親にかわいがってもらっている。」と思えた次女は驚くほど態度が変わったそうです。この出来事以降、先生は一人っ子作戦をお勧めしているとのことでした。

【運動コンプレックス】

勉強はできるのに、他の子に意地悪なことばかり言う小一の女子。秋に向けてますます言動が悪くなり家庭に連絡したところ、母はあっさり「運動会が近いからですよ。」との返答。走るのが遅く運動コンプレックスを抱えていたためでした。

先生からの連絡を受け話し合った両親は、父が娘と一緒に毎日走ると決め、一日も欠かさず続けたそうです。走ることに慣れ駅伝の選手に選ばれるほどになり、同じ子かと思うほど落ち着いたそうです。

【発達障害か？】

どうしてもじっとしてられないという小一の男子。授業にならないためにその子だけ校庭に連れ出し、思い切り走らせたり鉄棒をさせたりした後、教室に戻ったところ、嘘のようにおとなしく席につて授業に臨むようになりました。

「何でもかんでも発達障害だ、多動だと決めつけてしまうのではなく、落ち着かない、やかましい、言うことを聞いていないという幼児の本質を知って、動きたいなら思い切り動かしてあげればよい。」とのことでした。

母親＝女性の思う「おとなしくて言うことをきく優しい良い子」の基準で子ども（特に男子）の本質を抑えてはいけない、という先生の慧眼に感服しました。

【算数ができない】

算数の成績が悪く、花まる学習会に通っていても全く成績が上がらない小五の男子。それでも母は「この子がいてくれるだけで幸せなのです」と笑っていたとのことでした。

結局、中学・高校でも数学は前代未聞にできなかったが、好きな英語を頑張っていてアメリカの大学に進学しました。この子が立派に育ったのは算数ができなくても全く気にせず息子に愛情を注いだ母の力だ、と強調されていました。

高濱先生はその長年の経験から、最終的に子どもを立ち直らせ幸せにするのは「父の存在感と子どもへの関わり」そして「母の無条件の愛情」だと確信していらっしゃいました。

（出典）とちぎPTA新聞196号より

2 調査人数とお子さんの学年

参加者 約700名

小学低学年	小学中学年	小学高学年	中学生	合 計
29名	65名	69名	159名	322名

子育てセミナー2017 会場アンケートより

3 携帯電話について

(1) 現在、小・中学校に在籍の一番上のお子様は専用の携帯電話はお持ちですか？

ア 持っている イ 持っていない

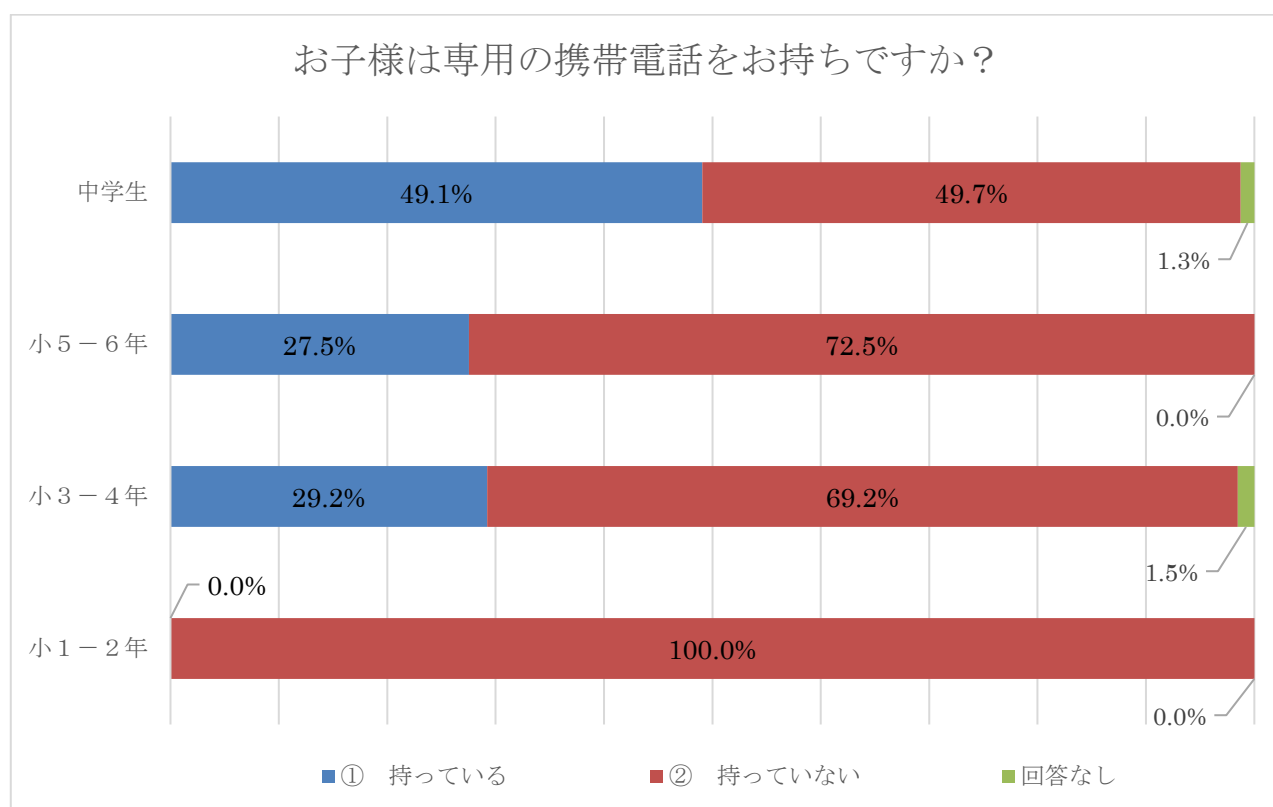
(2) 「ア 持っている」とお答えの方にお伺いします

利用している SNS や機能は？（複数選択可）

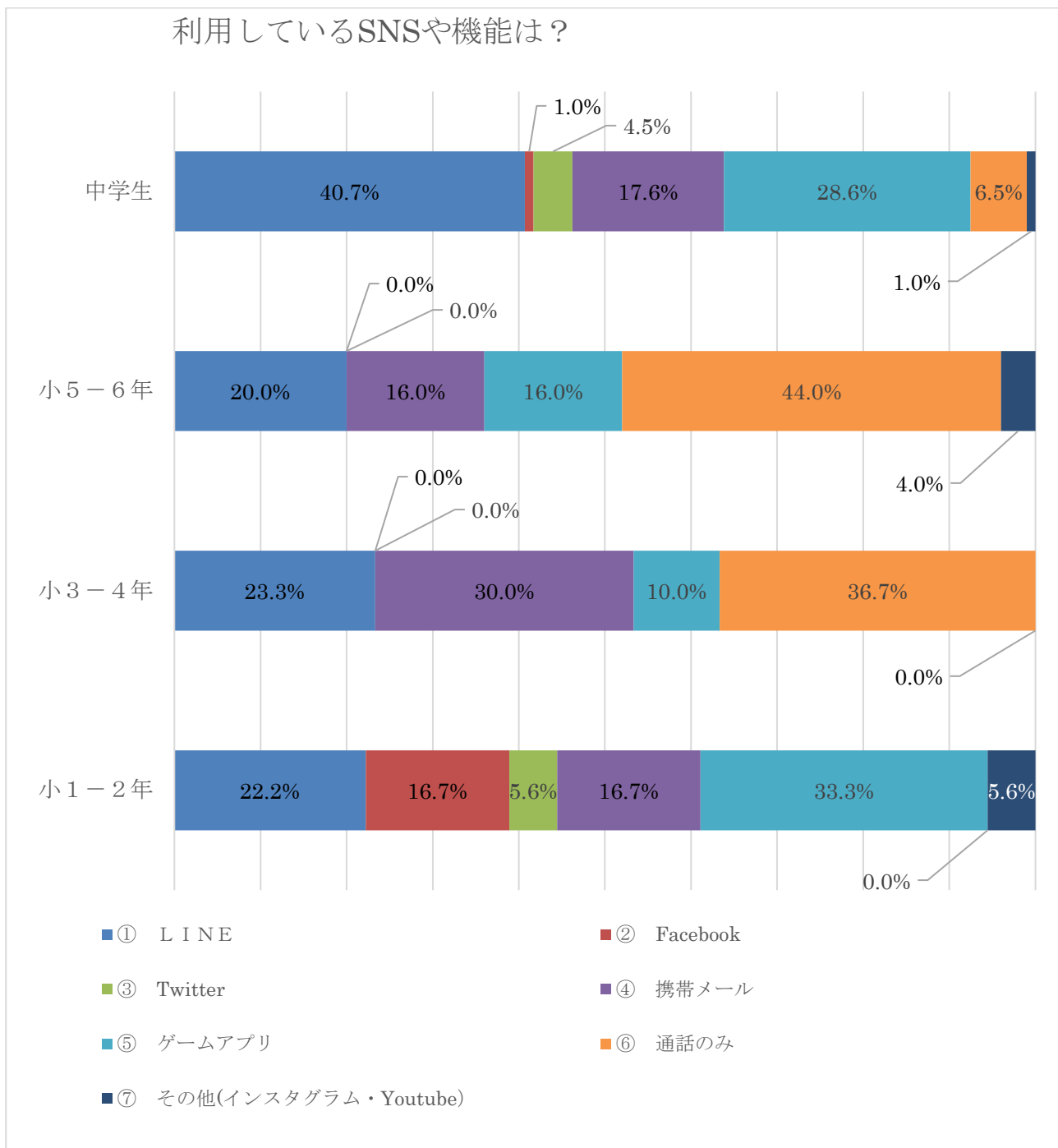
ア LINE イ Facebook ウ Twitter エ ブログ オ 携帯メール カ ゲームアプリ
キ 通話のみ

(3) 「イ 持っていない」とお答えの方にお伺いします。いつごろ持たせようと思いますか？

ア 高校卒業時 イ 高校入学時 ウ 中学入学時 エ 欲しいといわれたらすぐにも



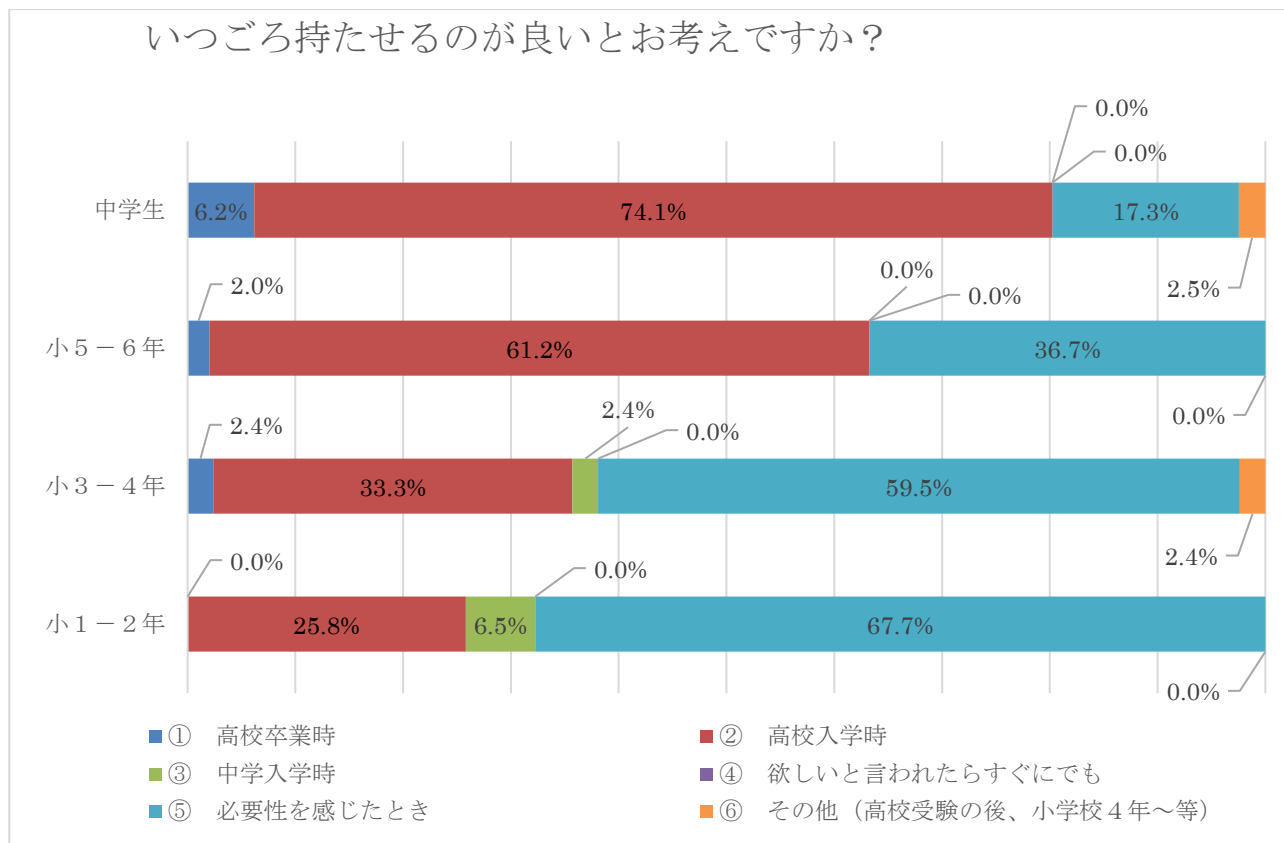
4 利用しているSNSや機能は何ですか （「携帯電話を持っている」と回答した方への質問）



5 いつ頃持たせようと思いますか

（「携帯電話を持っていない」と回答した方への質問）

いつごろ持たせるのが良いとお考えですか？



中学生の携帯所持率が5割近いことから、所持を考える保護者に変化が生まれていると考える。

昨年の携帯を持たせる時期のアンケートでは、小学1～2年生で「必要を感じた時」という回答が「45%」だったのに対し、本年は「66.7%」と変化した。これは、様々な環境の変化により、親子の連絡手段や安全面を考慮など、携帯を所持する理由が出来たために考え方に変化が生じた結果かと思う。さらに、周りの環境から携帯を持たざるを得ない状況が重なっていると感じる。また、「高校入学時」という回答が多い中で、実際には携帯所持の低年齢化が進んでいるように思われる。

面白いことに、アンケートでは携帯所持率が0%の小学1～2年生が利用している機能として「ゲームアプリ」が「33.3%」、「LINE」が「22.2%」と5割を超えており、本人は所持していなくても、保護者の持つスマートフォンやタブレットを利用している様子が伺える。幼少期から扱い慣れていることで、今後ますます利用の低年齢化が進むと考えられる。

また、「通話」が小学3～4年生で「36.7%」、小学5～6年生で「44.0%」と多く利用されているのに対し、中学生では「6.5%」と大幅に減っている。これは、中学生の「LINE」利用が「40.7%」と小学生の倍に増加しているためと考えられる。グラフからも中学生ではSNSやアプリの利用が7割を超えていることがわかる。

学校等でネットの危険性に対する教育が進む中、常に携帯を所持していないと不安になる依存症や親の把握できない交友関係が引き起こす事案は増えており、持たせる必要があるのならば、親子で話し合っ規則を決め、保護者が利用状況を共有把握できる環境下で、子どもたちに上手に使わせていくことが大切だと考える。

この冊子の内容を無断転載することを禁じます

平成29年6月発行

栃木県PTA連合会

320-0066 宇都宮市駒生1丁目1番地6号

栃木県教育会館内

TEL 028-622-2833

FAX 028-622-2834

URL <http://www.tochigi-pta.gr.jp>